



火災・救急・救助 119 まとい

消防瓦版 纏 No.393

富良野広域連合富良野消防署占冠支署 ☎ (56) 2119

ホームタンクの点検を！！

近年、ホームタンクの老朽化、地震、落雪等の影響により家庭や事業所に設置されているホームタンクから油漏れ事故が発生しています。油漏れ事故が起きると、火災発生の危険性が増えるだけでなく、水質・土壌汚染を引き起こし、農作物や魚類などにも被害を及ぼす可能性があります。また、事故処理にかかる費用は、全て原因者が負担することになり、数十万から数百万円と高額になる場合があります。

日頃からホームタンクの点検を行い、事故を未然に防ぎましょう！



【点検のポイント】

- ①タンク本体に破損や変形等がないか
 - ②ストレーナーにひび割れや漏れがないか
 - ③配管ににじみや漏れがないか
 - ④脚部に破損、変形、傾き等がないか
 - ⑤燃料ゲージの急な減少がないか
- ※タンク周辺や地面から灯油のにおいはしないか

救急出場状況
(5月分)

交通	1件 (0人)
労働災害	1件 (1人)
一般負傷	1件 (1人)
急病	2件 (2人)
5月計	5件 (4人)
累計	51件 (47人)
※ () 内は搬送人員	

地域とともに コミュニティ・スクール情報
～占冠中央小学校～

占冠村教育委員会 ☎ (56) 2182

小中一貫をめざす



令和3年度も、かねてから検討を重ね、進めてまいりました占冠中央小と占冠中学校の小中一貫連携事業がスタートしています。現在は小学校と中学校の乗り入れ授業を中心に連携を展開しています。「乗り入れ」とは、それぞれの学校の教諭が互いの学校へ赴き、指導を行うことを言います。

中学校から小学校へ乗り入れるメリットとしては、教科担任制である中学校の専門性を活かすことであり、児童にとっては学ぶ楽しさを味わうことができる機会となります。また、小学校教諭が中学校で教えることでは、アクティブラーニングの視点で、体験的に学ぶ手法を学習に意図的に散りばめ、分かる授業、知る喜び、紐解く面白さを存分に味わわせる学習づくりが期待できます。これにより、中一ギャップといわれる小中接続の課題緩和をねらうとともに、小中9年間の学びの積み上げを図ります。

現在は、小学校から中1英語、中学校から5・6年外国語、6年算数、6年理科、3・4年体育をそれぞれ週2時間程度の乗り入れを実施しており、子どもたちだけでなく、教職員の意識改革にもつながっています。

この場でお伝えしております小中9年間の児童生徒の目指す姿の実現に向けて、より綿密で、滑らかな連携の在り方を追究していきたいと考えています。

地域包括ケアシステム
「自分らしい暮らしを最後まで」

日本では、団塊の世代が75歳以上となる2025年以降も高齢者の人口割合が増加し続けると予想され、国民の医療や介護の需要も増加することが見込まれています。その状況に伴い、厚生労働省は、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、地域の包括的な支援・サービス提供体制「地域包括ケアシステム」の構築を推進しています。

「生活支援体制整備事業」単身や夫婦のみの高齢者世帯や認知症高齢者などの生活を支援するため、医療・介護サービスだけの提供ではなく、地域の生活支援を担う事業主体と連携しながら、日常生活上の支援体制の充実と高齢者の社会参加の推進を一体的に図っていくため、「協議体」と「生活支援コーディネーター」(地域支えあい推進員)を配置しています。

「地域包括ケアシステム」は、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援の5つをバランスよく組み合わせ、高齢者の自立した生活を支えようというシステムです。

広報3月号では「介護予防・日常生活支援総合事業」について紹介しましたが、今回は「生活支援体制整備事業」についてお話しします。

1 協議体とは

地域で関係者と情報共有や連携強化を図る話し合いの場です。主に地域のニーズや地域資源の把握、地域づくりにおける情報交換及び働きかけ、生活支援等サービスの企画、立案などについて協議します。

2 生活支援コーディネーターとは

高齢者の生活支援・介護予防の基盤整備を推進していくことを目的とし、日常生活の支えあい活動や介護予防サービスの提供体制づくりに関係者間と連携しながら地域づくりを考えます。

〈役割〉

①社会資源を適切に把握し、地域の住民ニーズに合わせた新しい福祉サービスの開発と育成
地域における社会資源を見直し、地域に住む高齢者のニーズにあった新たな福祉サービスの発掘または開発、新しい生活支援サービスの供給や人材育成を行います。

②地域における新しい福祉ネットワークの構築

村や地域包括支援センター、地縁組織、NPOや民間企業、協同組合、ボランティアなどの関係機関の連携や体制づくりの役割を担い、新しい福祉ネットワークの構築を進めます。

③地域においての支援に関するニーズと取り組みのマッチング
地域の実情を踏まえてニーズを掘り起こし、そのニーズに合ったサービスを発掘して適切な事業所や関係機関につなげます。

○こんなときには、ご相談ください
・高齢者が買い物に困っている。
・地域にみんなが集まる場がほしい。
・足腰が痛くてゴミ出しに苦労している。
・ちよっとしたお手伝いやボランティア活動をしたい。 など

生活支援コーディネーター相談窓口
占冠村地域包括支援センター(福祉子育て支援課)
☎ (56) 2022

こんにちは
保健師です

住民課保健予防担当
☎ (56) 2122